

令和2年度
事業報告書



社会福祉法人 **広寿会**



広田小学校
運動会



100歳の
お祝い



お茶のみ



そとつき



菜めし作り



里帰り



年賀式



花火



いそそとつぎ

令和2年度
社会福祉法人広寿会 事業報告書
目次

1. 法人部門.....	5
【運営理念】	5
【基本方針】	5
〈ひろた職員心得〉	5
【令和2年度目標の評価】	6
〔1〕 法人の概要	8
〔2〕 役員等の状況	8
〔3〕 令和2年度評議員会開催状況.....	8
〔4〕 令和2年度理事会開催状況.....	9
〔5〕 職員の状況	10
2. 施設部門.....	11
【令和2年度目標の評価】	11
〔1〕 施設部門の状況.....	11
(1) 施設の種類	11
(2) 運営状況（利用状況）	11
(3) 利用者の状況.....	12
〔2〕 事業内容.....	13
(1) ユニットの状況	13
(2) 行事報告	14
〔3〕 委員会	15
(1) リーダー会	15
(2) サブリーダー会	16
(3) 事故防止委員会	16
(4) 排泄委員会	17
(5) ユニット会	18
(6) 身体拘束廃止委員会.....	18
(7) 褥瘡予防委員会	19
(8) 感染予防対策委員会.....	19
(9) 医療安全管理委員会.....	20
(10) 苦情検討委員会	20
〔4〕 その他の会議	20
(1) 第三者委員会.....	20
(2) 利用者相談会「いどばた会議」	21
(3) 家族の会	21

〔5〕 その他の事業.....	21
3. 在 宅 部 門.....	22
〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた	22
【令和2年度目標の評価】	22
(1) 運営状況.....	22
(2) 苦情受付.....	23
(3) 地域連絡会	23
〔2〕 たちばなの家じゃんけんぼん	23
【令和2年度目標の評価】	23
(1) 運営状況.....	23
(2) 事業内容.....	24
(3) 事故報告.....	25
(4) 防火・避難訓練.....	26
(5) 苦情受付.....	26
(6) 在宅ケア委員会.....	26
〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）	27
【令和2年度目標の評価】	27
(1) 運営状況.....	27
(2) 事業内容.....	28
(3) 事故報告.....	29
(4) 苦情受付.....	30
(5) 在宅ケア委員会.....	30
〔4〕 砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）	31
(1) 転倒予防教室.....	31
(2) 地域住民グループ支援事業.....	31
(3) いきいき見守り配食サービス	31
〔5〕 支援ハウス（砥部町受託事業）	31
(1) 運営状況.....	31
(2) 行事報告.....	31
4. 会 議 等.....	32
〔1〕 主任会	32
〔2〕 職員会	32
〔3〕 広報委員会	33
〔4〕 防災委員会	33
〔5〕 給食委員会	34
5. 研 修 等.....	37
〔1〕 施設内研修	37

1. 法人部門

【運営理念】

「ノーマライゼーションの理念を大切に」

- 1 自立支援〈できるだけ自立した生活の支援〉
- 2 自己決定〈できるかぎり本人による選択・決定〉
- 3 権利擁護〈いつの場合も個人の権利を守る〉

【基本方針】

「一人ひとりの暮らしを支えるケア」を目指して

- 1 利用者一人ひとりを見つめ、最期まで尊厳ある生活の実現
- 2 利用者の人権、プライバシーの保護
- 3 在宅高齢者の生活支援、QOLの向上
- 4 保健・医療・福祉の連携を強め、地域の福祉ニーズに応える
- 5 研修及び自己啓発等により職員の資質向上を図る

〈ひろた職員心得〉

今日も一日

1. さわやかな挨拶を交わします

2. 明るい笑顔で接します

3. 思いやりのある言葉で接します

4. 愛と真心を持って介護します

これらを胸に

働ける幸せに感謝します

【令和2年度目標の評価】

(1) 満足度の高いサービス提供と地域に根差した事業所づくり

2年度は新型コロナウイルスの感染防止に心を砕いた1年であった。施設では、県下での緊急事態宣言発出から面会を中止または大幅に制限したり、在宅部門では迎え時の検温や体調確認に加え、利用者家族の行動や体調も確認したりした。

感染リスクの回避を主眼においたことで計画していた行事の多くは中止せざるを得ず、中でも、利用者が楽しみにされている保育所園児や他事業所との交流等ができなかったことは残念であった。ただ、当初は、とにかく人との接触を避けることに注力していたが、ウイルスの特性等が把握されてからは、感染防止策の徹底や参加人数を調整することで徐々に行事を一部再開し、職員一丸となって利用者が少しでも笑顔になれる時間を持てるよう努めた。

広寿会は小規模法人であるが、広田地域で見れば大きな事業所であり、職員の多くは地域外から通勤している。その職員の誰かが、万が一にもウイルスを持ち込むようなことになれば、地域に与える影響は容易に想像できる。そのため、職員には休日の外出自粛等の行動制限を厳しく求め、我慢を強いてきた。職員一人ひとりがこの状況を理解し、意識してくれているおかげで、現時点では感染を免れているが、この心配な状況はまだ当分続きそうな様子である。地域の高齢者が安心して利用できる事業所として、引き続き気を緩めることなく感染防止の徹底を図っていかなければならない。

そして、3年3月には、一大事業として計画推進してきた小規模多機能型居宅介護事業所「やまの里たまたに」が完成した。年明けから地域の各所を訪問し、事業所開設のあいさつやサービスの概要を説明したが、広田地域では初めての事業形態であるため、特養やデイサービスとの違いを十分に理解していただいたとは言い難い。実際に運営を開始し、時間をかけて試行錯誤を重ねていきながら、地域住民に受け入れてもらえることを願いたい。やまの里たまたには、これまでのサービス内容では補いきれなかった部分の支援が可能で、広田地域の在宅生活を支える基盤は間違いなく強化されたと自負する。過疎と高齢化が進もうとも、多くの住民が願う『住み慣れた場所で、できる限り長く住み続ける』ことが実現できるよう、そしてまた社会福祉法人として『地域を支える』という責務を果たせるよう努力していきたい。

(2) 職員の資質、専門性の向上と働き甲斐のある職場づくり

2年度前半は、感染防止に重点を置いたため、法人内外の各種研修も中止または延期とした。しかし、夏頃からは各関係機関からWEB研修の案内が増え、感染対策や介護報酬改定の研修をリモートで受講できるようになった。感染のリスクがなく集中して受講できることや研修会場までの移動負担もないので、受講した職員からも好評でWEB研修のメリットを実感した。ちょうど3年3月には、広田地域も高速ブロードバンドが開通したので、この恩恵を十分に活用して、職員研修をより充実させることはもちろん、利用者と家族の面会手段としても効果的に活用していきたい。

法人では、職員の資格取得を奨励しており、2年度も介護福祉士や介護支援専門員試験に数

人の職員が挑戦した。残念ながら、あと一步のところまで合格に届かなかったが、法人としてこの挑戦を高く評価し、引き続きできる支援をしていきたいと思っている。また、一方では介護福祉士実務者研修を受講予定であった職員が、新型コロナウイルスの感染を恐れて受講を断念する例もあった。そのため、いろいろ研修機関をあたって見たところ、リモートでこの実務者研修を受講ができることが分かったので、早速、広寿会を研修会場として登録し、安心して受講できる体制を整えた。このリモート研修を使って3年度、5人の職員が受講を予定しており、年明けの介護福祉士試験合格を大いに期待しているところである。

介護保険制度が始まって20年が経過し、専門性やケアの成果がこれまで以上に求められるようになってきた。資格取得が職員個々の大きな自信となり、キャリアアップにつながることは明らかである。広寿会としてもハード、ソフトの両面から職場環境を整え、やりがいのある職場、働きやすい職場になれるよう、職員とともに成長をしていきたい。

(3) 未来を見据えた活力のある法人経営

コロナ禍による利用控えや事業所側から一時的に利用をお断りするケースは若干あったものの、稼働に大きく影響することはなかった。どの事業所からも新型コロナウイルス感染者を出すことなく1年を終えることができたのは、職員一人ひとりが感染対策の徹底に努めた成果であるが、これは職員の家族の協力、そして利用者と利用者家族、さらには地域や関係取引先等の理解があったからこそその結果であり、心から感謝したい。

収支に関しては、感染対策用品を購入したり、ビニールグローブ等消耗品の価格が高騰したりとコロナ関連で一部支出が増えた他、玉谷拠点の開設準備費用や特養ひろたの入浴装置の入替等の大きな事業があったことで経費率は元年度比1.8ポイント高くなった。しかし、それぞれに補助金を活用できたことで、どうにか収支バランスは保てたかというところである。

立花拠点については、この数年の厳しい運営状況から2年度末での事業休止を決定した。平成22年の開設から11年、家庭的な雰囲気を利用者一人ひとりに寄り添い、有難いことに利用者や家族、関係の介護支援専門員からは高い評価をいただいた。しかしながら、制度の移り変わりにより小規模デイサービス単体での存続は非常に難しく、苦渋の決断に至ることとなった。

一方、2年度末の開設を予定していた小規模多機能型居宅介護事業所は、コロナ禍の影響で全てのスケジュールが遅れ、年度末に改修工事が完了した。事業開始は、3年度(5月1日予定)にずれ込む形となったが、良いスタートが切れるよう、職員確保等の課題をクリアしていかなければならない。

また、2年度は、開設21年目を迎えた本体建物の改修計画にも着手した。着工は3年度の予定であるが、空調設備や外壁におよぶ非常に大きな工事となることが予想される。工事が利用者に与える負担を最小限にとどめ、無事に完成を迎えることができるよう必要な対応にしっかり当たっていきたい。

〔1〕 法人の概要

1. 法人名 社会福祉法人 広寿会
2. 所在地 愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地
3. 法人の事業
 - ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホームの経営
 - ② 第2種社会福祉事業
 - (イ) 老人短期入所事業の経営
 - (ロ) 老人デイサービス事業の経営
 - (ハ) 地域密着型通所介護事業の経営
 - (ニ) 介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業の経営
 - (ホ) 介護保険法に基づく介護予防通所介護事業又は第1号通所事業の経営
 - (ヘ) 生活支援ハウスの経営
 - (ト) 小規模多機能型居宅介護事業の経営
 - ③ 公益事業
居宅介護支援事業

〔2〕 役員等の状況

1. 構成（令和3年3月31日現在）

評議員	定数	7人
理事	定数	6人
監事	定数	2人

〔3〕 令和2年度評議員会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和02年06月23日 (評議員) 7人 (監事) 2人	報告	第1号 令和元年度事業報告について
	議案	第1号 令和元年度計算書類の承認について
令和02年12月11日 (決議の省略)	報告	第2号 小規模多機能型居宅介護事業所整備に係る資金借入について
		第3号 たちばなの家じゃんけんぼんの運営について
	議案	第2号 定款変更について
		第3号 令和2年度第一次補正予算案の承認について
令和03年03月30日 (評議員) 7人 (監事) 2人	議案	第4号 令和2年度第二次補正予算案の承認について
		第5号 令和3年度事業計画案の承認について
		第6号 令和3年度当初予算案の承認について

〔４〕令和２年度理事会開催状況

開催年月日 出席人数	議事	
令和02年06月06日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第1号 令和元年度事業報告並びに決算の承認について 第2号 評議員会の招集について
令和02年08月07日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第3号 小規模多機能型居宅介護事業所改修工事の入札執行について
令和02年09月11日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第4号 小規模多機能型居宅介護事業所改修工事入札結果報告及び工事請負契約の締結について 第5号 規程の一部改正について 第6号 小規模多機能型居宅介護事業所整備に係る旧玉谷小学校跡地の借用について
令和02年12月06日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第7号 理事長専決事案に係る同意について 第8号 小規模多機能型居宅介護事業所改修工事設計監理契約の一部変更について 第9号 定款変更について 第10号 小規模多機能型居宅介護事業所整備に係る資金借入について 第11号 特別養護老人ホームひろた改修工事の設計監理委託について 第12号 固定資産の取得について 第13号 第一次補正予算案の同意について 第14号 第三者委員の選任について 第15号 たちばなの家じゃんけんぽんの運営について 第16号 評議員会の招集について
令和03年01月26日 (決議の省略)	議案	第17号 特別養護老人ホームひろた改修工事に係る設計監理委託業者の選定並びに契約締結について 第18号 小規模多機能型居宅介護事業所開設に係る整備予定機器の入札執行について
令和03年03月13日 (理事) 6人 (監事) 2人	議案	第19号 理事長専決事案に係る同意について 第20号 規程の制定及び一部改正について 第21号 令和2年度第二次補正予算案の同意について 第22号 令和3年度事業計画案の同意について 第23号 令和3年度当初予算案の同意について 第24号 評議員会の招集について

〔5〕 職員の状況

【職員数】

単位：人

	常勤				短時間勤務職員		計	
	正規職員		準職員					
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
男	11	10	1	1	3	2	15	13
女	16	15	4	4	14	15	34	34
計	27	25	5	5	17	17	49	47

※ 各年度3月31日現在

【勤続年数】

単位：人

			1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 10年未満	10年～ 15年未満	15年以上	計
常勤職員	正規職員	男	0	0	4	2	3	1	10
		女	0	0	6	1	2	6	15
	準職員	男	0	1	0	0	0	0	1
		女	0	1	0	3	0	0	4
非常勤職員	男	0	2	0	0	0	0	2	
	女	2	2	3	5	3	0	15	
計			2	6	13	11	8	7	47

※ 令和3年3月31日現在

【有資格者数】

単位：人

	看護師		准看護師		社会福祉士		介護福祉士		管理栄養士		介護支援専門員	
	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
男	0	0	0	0	0	0	9	8	0	0	3	2
女	2	2	5	6	0	0	14	14	2	2	2	2
計	2	2	5	6	0	0	23	22	2	2	5	4

※ 1人で2以上の資格を有するものについては、それぞれに計上

※ 各年度3月31日現在

【研修修了者の推移】

単位：人

認知症対応型 サービス事業 開設者研修		認知症対応型 サービス事業 管理者研修		小規模多機能型 サービス計画 作成担当者研修		認知症介護 実践者研修 (実践リーダー研修)		認知症介護 実践者研修	
元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度	元年度	2年度
1	1	3	2	1	1	1	1	6	6

※ 1人で2以上の受講を修了するものについては、それぞれに計上

※ 各年度3月31日現在

2. 施設部門

【令和2年度目標の評価】

【重点目標】 利用者の笑顔あふれる施設づくり

利用者の重度化に比例し、2年度も入退居の多い1年であった。退居者の多くは家族が施設でのターミナルケアを希望され、8人の方を看取った。コロナ禍ではあったが、家族にも感染防止策に協力をいただき、一緒に過ごす時間をもてるよう努め、また施設での看取りに大きな理解を示してくれている嘱託医のサポートもあり、家族から感謝の言葉をいただけたことには大きな達成感を感じた。

状態の変化を察知する機会となるダブルチェックも定着し、入院件数は6件と少なかったが、延べ入院日数は110日と、目標の100日未満とはならなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、行事や外出の中止や家族の面会をお断りする状況が続いたが、事業計画に掲げた『夢かなえようプラン』は、県内外の感染状況を見ながら感染対策を行ったうえで個別に実施した。四季の移り変わりを感じていただけるようなプランを実施し、同行した職員は、いつもとは違う利用者の表情に多くの気づきを得ることができ、モチベーションの向上にもつながった。

施設内研修については、上期は大人数での集まりを極力避けたことから、研修の実施が難しい状況であった。下期からは研修委員会で検討して、感染予防策を行い短い時間で、より「職員に理解しやすく」を目標に、参加型の研修を再開した。

計画していた多くの企画が中止となる中、利用者が一番楽しみにされている『食』を通して、少しでも気分転換になればと、ユニットでの食事作りを徐々に再開した。職員が調理を行い、見て楽しんでいただくことから始め、下期からはマスクと手袋の着用等お願いをしたうえで、利用者にも参加していただけるように拡げていった。生活という場で、どこまで感染対策を取っていいのかという不安もあったが、利用者の「とてもおいしかった」「また作ろうね」といった言葉や笑顔から『どうすればできるか』という検討や工夫を重ねていくことの大切さを感じた1年だった。

〔1〕施設部門の状況

(1) 施設の種類

- ①特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設） 定員 30人
- ②老人短期入所事業所（指定短期入所生活介護事業） 定員 6人

(2) 運営状況（利用状況）

【指定介護老人福祉施設】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平均介護度	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1
稼働率(%)	98.0	99.0	99.2	99.7	100.0	99.4	100.0	99.7	98.9	99.8	100.0	100.0	99.5

※ 元年度稼働率 100.2%（空床利用含）

【指定短期入所生活介護事業所】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用件数	15	15	14	13	15	15	16	16	15	15	13	15	14.7
稼働率(%)	99.4	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.5	100.0	100.0	100.0	99.6

※ 元年度稼働率 99.1%

※ 2年度全体（特養＋短期）稼働率 99.5% 元年度全体（特養＋短期）稼働率 100.0%

（３）利用者の状況

【出身地別入居・退居状況】

単位：人

市町／区分	保険者別利用者数			令和2年度中の異動状況					
				入居			退居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
砥部町	9	11	20	4	3	7	1	3	4
内子町	3	6	9	3	1	4	2	3	5
松山市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
伊予市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大洲市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
合計	12	18	30	7	4	11	3	8	11

※ 平均入居日数 1,000日

【年齢区分別構成状況】 令和3年03月31日現在

単位：人

年齢区分	男	女	計
75歳～79歳	1	0	1
80歳～84歳	1	1	2
85歳～89歳	3	5	8
90歳～94歳	4	8	12
95歳以上	3	4	7

【入院経過状況】

件数	入院日数	入院期間	入院原因
1	20日	R02.04.21 ～ 05.12	肺炎（入院中に退居その後死亡）
2	21日	06.09 ～ 07.01	肺炎（入院中に退居その後死亡）
3	15日	09.09 ～ 09.25	腸炎
4	20日	12.08 ～ 12.29	胆嚢炎、尿路感染、肺炎
5	19日	R03.03.12 ～ 04.05	糖尿病悪化（入院中に退居）
6	15日	03.16 ～ 04.06	閉塞性動脈硬化症・心筋梗塞
計	110日		

※ 元年度入院 5件 延べ入院日数 141日

※ 入退院日は入院日数に含めない

〔2〕事業内容

（1）ユニットの状況

◆一丁目ユニット・・・男性：10人 女性：5人 平均年齢：89.6歳 平均介護度：4.4

2年度は新型コロナウイルスの影響で、思うような活動ができない1年だったが、秋頃より感染対策をとりながら近場の外出や施設周辺の散歩を行うことができた。紅葉狩りに行ったり地元のものに触れたり、広田地域の良いところを利用者と一緒に再発見でき、改めてとても良い環境で生活をしているのだと実感した。

また、「食」の大切さも実感した1年でもあった。看取り期で機能が低下し食事を受け付けない状態になっても、食べたいという利用者の想いと、少しでも食べさせたい家族の想いに対して、安全面に配慮しながら満足できる食事提供を行うことの難しさを感じた。食へのこだわりや『食べたい』という気持ちは生きるための原動力であり、その想いに寄り添い最後まで「美味しい」と満足のいくひと口を提供できるよう考えていくことが大切だと感じた。

急な別れも経験したことから、また今度ではなく、今できることは思ったときに行動に移し、後悔のないよう利用者と過ごす時間を大切にしていきたい。



【紅葉狩り】



【集合写真】



【誕生日会】

◆三丁目ユニット・・・男性：2人 女性：13人 平均年齢：91.3歳 平均介護度：3.8

2年度は新型コロナウイルスの影響で、施設での生活も制限の多い一年となった。このような状況の中でも、少しでも利用者に季節感を感じ楽しんでいただけるよう、感染対策をとりながら屋外での屋台を開催した。焼きそばやフランクフルトを目の前で焼き、焼きたてを美味しく食べている利用者は笑顔で溢れ、賑やかで楽しいひと時だった。締めにかき氷を楽しむこともでき、景色を楽しみながらの食事会は、職員にとってもリフレッシュの機会となった。

地域のイベントも中止となり、「地域の方とのふれあいが少なく寂しい」という利用者の声を聞いて考えた企画だったこともあり、利用者の喜んでる姿を見て、限られた中でも工夫すればできることがたくさんあると改めて感じた。

これからも利用者の想いを実現し、笑顔溢れる時間をつくっていきたい。



【屋台】



【ちらし寿司作り】



【外食 (こぶしの家)】

(2) 行事報告

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

食事作り・おやつ作り 1回/月

季節行事等

外出行事：道の駅・権現山付近（紅葉狩り）・尾首の池・施設近隣（お花見）

個別対応（外出、お墓参り）

施設内行事：たらいそうめん、屋台、デザートバイキング、もちつき、年賀式他
ボランティア

散髪ボランティア（偶数月）

《評価》

感染防止に重点をおいたことから、外出企画、他事業所や地域との交流等は中止せざるを得なかった。夢かなえようプランに関しても、例年と比べて実施回数は少なかったが、場所や計画内容を見直し、可能なものは実施できるよう努めた。幸い、広田地域は密になる環境ではないことから、広田小学校の運動会参加や紅葉狩り等、感染防止に配慮しながら行った。2月から3月にかけては、個別の希望に応じて自宅や墓参り等への外出を行った。制約が多く利用者にとっても辛い1年だったが、それだけに外出されたときの表情はとても生き生きとしていた。

《行事写真》



【尾首の池・お花見】



【秋季大運動会】



【食事作り】



【畑仕事】



【個別外出（自宅へ）】



【紅葉狩り】

〔3〕委員会

【委員会の種類と構成】

利用者の生活の質の向上、健康管理やケアの方法等について、関係職員で構成する会議及び委員会等で専門的に分析・検討し、方針決定する。

職名等 委員会等の名称	施設 長	部 長	生活 相談 員	看 護 主 任	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	ユ ニ ッ ト リ ー ダ ー	ユ ニ ッ ト サ ブ リ ー ダ ー	ユ ニ ッ ト 職 員	そ の 他 関 係 職 員
(1) リーダー会	●	●	●	●	●	●	●			
(2) サブリーダー会			●	●		●		●		
(3) 事故防止委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(4) 排泄委員会			●	●		●		●		
(5) ユニット会			●	●	●	●	●	●	●	
(6) 身体拘束廃止委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
(7) 褥瘡予防委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(8) 感染予防対策委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(9) 医療安全管理委員会	●	●	●	●	●	●	●			
(10) 苦情検討委員会	●	●	●	●	●	●	●			●

※ 「その他関係職員」とは、在宅部門や管理部門職員で、協議事案に直接または間接的に関係する職員

(1) リーダー会

(開催日) 毎月第3水曜日

(主な協議事項)

アクションプランについて、ユニット報告、業務連絡、新型コロナウイルス感染対策

開催日	内容
R02.04.16	新型コロナウイルス感染予防の対応
05.20	建物の修繕について 職員の体調不良時の連絡の仕方
06.18	人事
07.17	職員の体調管理 夢かなえようプラン
08.20	建物の設計 (修繕箇所の確認)
09.17	慰労金支給 人事
10.19	昼食の配膳時間の見直し 支援金用途内訳
11.16	記録システム
12.17	記録システム 業務改善
R03.01.21	服薬注意喚起 記録システム研修 業務改善 節電
02.18	服薬ミス注意喚起 業務改善 建物修繕
03.18	業務分担 指示系統の統一化 小規模多機能 ユニット異動 職員給与 ごみ処理 人事

(2) サブリーダー会

(開催日) 毎月第2水曜日

(主な協議事項) 事故防止対策、ケース検討、ケアの方向性・確認

開催日	内容
R02.04.09	事故検討(爪切り事故) ケース検討 新人職員経過報告
05.13	事故検討(内出血) ケース検討(介護ロボット導入)
06.10	事故検討(内出血) ケース検討(スライディングボードの積極的活用)
07.08	転倒事故(6.22)の経過報告 2階階段の施錠確認、注意喚起
08.13	事故検討(内出血) 2階の階段施錠確認
09.09	事故検討(皮膚剥離) ケース検討
10.13	事故検討(内出血、転倒)
11.11	事故検討(座り損ね、転倒)
12.09	事故検討(転倒) 介護保険事故の経過報告
R03.01.15	事故検討(ベッド下の床に寝ている) ケース検討
02.10	事故検討(内出血、異食)
03.10	事故検討(異食) ユニット職員異動、新人職員対応

(3) 事故防止委員会

①件数

《危険度0》	… 事故を未然に防ぐことができた	7件
《危険度1》	… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった	50件
《危険度2》	… 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要	41件
《危険度3》	… 簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用)	28件
《危険度4》	… 濃厚な処置や治療を要した(骨折・縫合・入院等)	3件

	ヒヤリハット報告書(危険度0・1)	事故報告書(危険度2・3・4)
特 養	51	61
短期入所	6	11
合計	57	72

※ 元年度 件数 ヒヤリハット報告書… 104件 事故報告書… 62件

②事故・ヒヤリハットの内容と件数

ヒヤリハット報告書内容	
内出血	43
ベッドから転落	2
一人で歩かれていた	1
転倒	1
車椅子からの立ち上がり	1
ベッド柵設置忘れ	1

事故報告書内容	
転落	25
皮膚剥離	20
転倒	15
爪切り中・爪剥れ	5
配薬ミス	2
異食	2

その他	8
-----	---

切り傷	1
介助での内出血	1
胃ろうチューブ抜去	1

③分析

事故等の総件数は、元年度と比較すると 166 件から 129 件になり、特に皮膚に関するものは、94 件から 63 件と減少した。介護ロボットの活用や、持ち上げない介護技術の統一と習慣化が内出血事故減少の成果と考える。

ショートステイ利用者の家族から、転倒予防の観点からセンサーマットの使用を希望されることが増え、使用率が大幅に増えてきているが、ベッドからの転落事故の件数は 25 件と元年度と変わらず、センサーマットの使用が事故の減少に必ずしもつながっているとはいえない状況である。

介護保険事故に関しては、ショートステイ利用者が居室で転倒し床頭台に頭部を強打する事故と、一人で階段を下り 1 階部分で転倒する事故、また特養利用者がリビングで転倒して骨折につながった事故の 3 件が発生し、保険者に報告した。ショートステイ利用者の居室での転倒事故については、センサーマットを設置し、かつ周囲にマットレスを敷く等の対応をとっていたが、床頭台で頭を打つ可能性を考慮できていなかった。一人で 1 階に下りて転倒した事故については、広い意味での身体拘束と考え、階段出入口の施錠をしない対応をとっていたが、リスクマネジメントの観点を考慮し、会議で検討した結果、階段出入口の施錠を決定した。特養利用者のリビングでの転倒事故は、いつも一人で歩かれている利用者だったこともあり、職員の危険認識が低かったことが事故の原因となってしまった。

センサーマット使用率の増加によって、ナースコール対応が増え、リビングの見守りが手薄になってしまうという新たな課題もでている。また予測できない事故については、生活の場として利用者の尊厳に配慮しつつ、事故につながりにくい環境整備を、どう造りあげていくか、リスクマネジメント研修や委員会で引き続き検討していく。

(4) 排泄委員会

(目的) 排泄アセスメントを行い、排泄パターンの見直しと排泄用品の適正使用を検討する。

機能性尿失禁の症状のある利用者の排泄パターンを見直す。

(開催日) 毎月第 2 水曜日

(主な協議事項) 排泄アセスメント・排泄用品の見直し

《振り返りと目標》

年間延べ 30 人の尿量測定と排泄アセスメントを実施し、個々にあったトイレの誘導時間や使用する排泄ケア用品の検討、水分量の調整を行った。尿量測定、排泄アセスメントを行った人数が元年度より 8 人減少しており、十分な経費の削減につなげることができなかった。

重度化によって排泄ケアが難しくなっているが、今後も年 2 回の尿量測定と排泄アセスメントを行い、個々にあった快適な排泄ケアを検討していく。

(5) ユニット会

(目的) ケアの方向性の検討・確認 委員会報告を行う。

(主な協議事項) ケース検討 リハビリ方法 褥瘡予防 身体拘束廃止 感染予防

各委員会報告 栄養ケアマネジメント ヒヤリハット・事故報告検討

【一丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
R2. 04 月	(書面にて回覧) デスカンファレンス	10. 22	排泄ケア見直し 事故検討
05 月	(書面にて回覧) デスカンファレンス 新規利用者のケア検討	11. 26	デスカンファレンス 新規利用者のケア検討 職員・利用者の感染対策
06 月	(書面にて回覧) デスカンファレンス 新規利用者のケア検討	12. 24	デスカンファレンス 新規利用者のケア検討 食事ケア見直し (食事カード作成)
07 月	(書面にて回覧) 利用者の体調管理の留意点 (衣類調整等)	R03. 01. 28	デスカンファレンス 食事ケア見直し
08. 24	デスカンファレンス 脱水予防、熱中症対策	02. 25	新規利用者のケア検討 業務改善について 排泄ケア見直し
09. 21	食事ケア見直し 新規利用者のケア検討	03. 25	新記録システム導入について ポジショニング見直し

【三丁目】

月日	追加議題	月日	追加議題
R02. 04 月	(書面にて回覧) 食事ケア見直し	10. 27	食事ケア見直し 室温調整・換気・加湿器の徹底
05 月	(書面にて回覧) デスカンファレンス	11. 20	利用者・職員の体調管理留意点 食事ケア見直し
06 月	(書面にて回覧) 新規利用者のケア検討	12. 23	食事ケア見直し
07 月	(書面にて回覧) 食事ケア見直し	R03. 01. 27	排泄ケア見直し
08. 28	食事ケア見直し	02. 22	事故検討
09. 25	新規利用者のケア検討 デスカンファレンス	03. 26	食事ケア見直し

(6) 身体拘束廃止委員会

(目的) 身体拘束を行わないケアをする。

(主な協議事項) センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の利用者の状況

月日	追加議題
R02. 06. 18	センサーマット、低床ベッド、長いベッド柵の使用状況について
09. 17	センサーマット、低床ベッドの使用状況について
12. 17	センサーマット、低床ベッドの使用状況について

R03. 01. 21	センサーマット、低床ベッドの使用状況について、ベッドの位置（壁との距離）の確認
03. 18	センサーマット、低床ベッドの使用状況について

《振り返りと目標》

2年度も身体拘束を行うケースはなかった。新規利用者については、事前情報に基づきセンサーマットを使用しながら行動観察を行い、個々のADLに応じた環境整備を行った。また、ショートステイ利用者のセンサーマット使用の希望が多く、適正使用について検討を続けた。

年2回の研修では、「スピーチロック」といわれる言葉での行動制止についても事例を交えて検討し、自らの行動についても振り返りを行った。

委員会での定期的な検討と研修で、引き続き、安心・安全・快適な環境を提供できるよう努める。

（7）褥瘡予防委員会

（目的）褥瘡予防と早期発見、対応を行う。

開催日	追加議題
R02. 06. 18	ハイリスク者の抽出(4人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者1人の経過・対応検討
12. 17	ハイリスク者の抽出(3人) 前回との比較・原因分析 褥瘡発生者1人の経過・検討報告 総合的な観点からの予防について

《振り返りと目標》

健診結果を基に褥瘡発生リスクを点数化し、ハイリスク者を抽出して継続的に対応を行っている。

2年度は新しい褥瘡の発生はなかったが、褥瘡がある状態で入居された利用者について対応し、1か月で治癒した。特に注意が必要な利用者については、ポジショニングの要領をベッドサイドに掲示する等、統一したケアができるよう努めている。

褥瘡ケアは、排泄、栄養、疾病等あらゆる観点から総合的にみていくことが必要であるため、多職種で連携して新たな発生がないよう努めていきたい。

（8）感染予防対策委員会

（目的）感染予防及び発生時の対応と検討を行う。感染対策に関する職員研修を行う。

開催日	追加議題
R02. 04. 03	新型コロナウイルス感染症予防対策 面会について検討
04. 16	施設での新型コロナウイルス感染症発生時の対応方法について検討
05. 01	デイサービス、厨房での新型コロナウイルス感染症発生時の対応方法について検討
06. 12	職員の自粛緩和 施設内研修等の再開 日常生活のあり方についての検討
06. 18	新型コロナウイルス感染症発生時の濃厚接触者を減らす対策についての検討 感染予防対策の注意喚起
07. 17	フローチャートシートの検討
08. 07	お盆前後の感染予防対応強化 面会についての検討

08.12	新型コロナウイルス感染症発生時のシミュレーションの検討
09.17	新型コロナウイルス感染症の研修実施について マニュアル追加の検討
12.17	年末年始の感染予防対策の注意喚起

《振り返りと目標》

2年度は新型コロナウイルスの感染予防に終始した。刻々と変化する情報を整理しながら、また介護職員ではあまり経験のなかった予防衣の着脱の研修等も行い万が一に備えてきたが、十分なマニュアル整備までには至っていない。新型コロナウイルス対策の効果からか、インフルエンザやノロウイルス等の感染がなかったことはよかった。

3年度の制度改正で、感染症に対するBCPの策定も求められるようになったことから、自施設の状態にあう計画策定を目標に委員会で継続的に協議していく。

(9) 医療安全管理委員会

(目的) 医療事故防止の徹底と安全に対する意識啓発、対策検討を行う。

開催日	追加議題
R02.06.18	医療事故0件報告 服薬ミス予防の注意喚起
09.17	医療事故1件報告 ショートステイ利用者に薬出し忘れ予防の検討
12.17	医療事故2件報告 朝食後、夕食後の薬のとり間違い、誤薬予防の検討 服薬ミス予防の注意喚起の仕方について 胃ろう接続チューブ外れの予防検討
R03.03.18	医療事故0件報告 服薬ミス予防の注意喚起

《振り返りと目標》

2年度は、医療事故が3件発生し、誤薬・配薬ミスも2件に増えている。服薬に関する事故ゼロを目標にやってきたが、慣れたころ・忘れたころに発生した。医療事故は人的ミスであり、今後も毎月のリーダー会や朝礼で注意喚起を行い、薬を取る、確認する職員の責任の所在を明確にし、危機管理を徹底する等の対応を行い、医療事故ゼロを目指していきたい。

(10) 苦情検討委員会

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：0件

[4] その他の会議

(1) 第三者委員会

日 時：令和2年11月10日(火) 15:00~16:00 / 特養ひろた研修室

出席委員：3人

協議議題：令和元年度事業報告、監事監査報告、各事業所事故報告、苦情受付
感染予防対策について、新規事業について

意見等： 転倒事故が起きた場合は、速やかな受診対応ができるよう態勢を整える必要があるとアドバイスをいただく。

今後は、家族に相談し、受診の有無の確認を取りながら、速やかに対応していくことを伝える。

（２）利用者相談会「いどばた会議」

新型コロナウイルス感染症予防のため中止

（３）家族の会

２年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、家族会が関わる全ての行事が中止となった。会計報告等は家族面談の際に書面で報告を行った。

○令和２年７月２５日～令和２年７月３１日

面談者人数…30 家族

〔５〕その他の事業

各地区の介護予防教室

【介護予防教室】

地区の集会所で行われる介護予防教室に里帰りを兼ねて参加。地域外の施設からひろたに戻ったことで久しぶりに地元に戻った利用者は、マスクをつけていても、互いのことをすぐに理解し、近所の方々との再会を喜ばれた。生き生きとした表情で饒舌に話される姿は、施設での様子とは違い、地域とのつながりの大切さを改めて気づかされる機会となった。



【介護予防教室参加】

3. 在 宅 部 門

〔1〕 指定居宅介護支援事業所ひろた

【令和2年度目標の評価】

【重点目標】 できるだけ住み慣れた家、地域で暮らし続けられる支援

要介護認定者 13 人の新規契約があったものの、亡くなった方が 10 人おり、年度当初の対応人数と比べ年度末では 6 人減となった。在宅での生活の中では専門的知識や細やかな状態観察は同居の家族にも負担がかかるため、可能な範囲での介護となり、本人が望む自宅での生活と、家族の介護負担軽減の両立の難しさを感じる 1 年であった。要介護認定を受けたが、自立意欲が高く、福祉サービスを使わずに生活を送られた方もおり、定期的な訪問、状態の確認を行い、本人や家族にその都度アドバイスをする等、自宅での生活が続けられるよう支援を行った。

介護予防では、新規対応者 11 人と軽度認定者が増えている。残念ながら認知症の進行や身体機能の低下により要支援から要介護となった方が 5 人いた。予防的対応を定期的にアドバイスしているが、本人の生活習慣を変えていくことは難しく、なかなか理解が得られない状況で徐々に身体機能が低下してしまったことは残念である。しかし、熱心にリハビリ等に取り組み、自立した生活を送れるようになったために介護保険更新をしなかった方もいた。

3 年度は小規模多機能型居宅介護事業所が広田地域に開設される。住み慣れた自宅や地域で生活をするうえで山間部という地域であることから、社会資源やサービス等が十分でない状態を少しでも改善し、地域に密着した細やかな支援を提供できることを期待している。

(1) 運営状況

【利用状況推移】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	38 (24)	34 (25)	33 (25)	31 (25)	36 (23)	35 (24)	34 (23)	32 (22)	31 (23)	31 (22)	31 (25)	32 (29)	33.1 (24.1)

※ 元年度月平均利用人数 39.2 人 (25.3 人)

() 介護予防

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実態把握	1	3	3	1	3	1	3	4	7	1	0	0	27

※ 実態把握…独居高齢者で生活に不安がある方を対象に訪問し継続して訪問の必要な方対象

【介護度別利用実人数】 令和3年3月31日現在 平均要介護度：2.2 (元年度：2.1) () は元年度比

	要支援			要介護					合計
	事業対象	1	2	1	2	3	4	5	
男性	1	2	2	6	3	3	0	0	17(-3)
女性	0	11	13	5	5	7	1	2	44(+4)

(2) 苦情受付

受付件数：0件

(3) 地域連絡会

(参加者) 砥部町保健師、砥部町国保診療所(医師、看護師)、砥部町地域包括支援センター職員、砥部社協訪問介護職員、特養ひろた生活相談員、砥部町デイサービスセンター生活相談員、居宅介護支援専門員

(開催場所) ひろた交流センター研修室

(開催日時) 毎月 第4火曜日 13:30～

(協議事項) サービス担当者会議、ケース検討、各機関連絡事項、その他

〔2〕 たちばなの家じゃんけんぽん

【令和2年度目標の評価】

【重点目標】 安心して在宅生活が続けられるための支援

稼働率の向上を目標に、感染状況を勘案しながら積極的に居宅介護支援事業所を訪問し営業を行った。機能訓練を兼ねた手打ちうどん作りや広田で採れた紫蘇を使ったジュース作り等は、画期的な活動提供として好評で、新規事業所2ヶ所を開拓できた。これを含め5人の体験利用があり、うち4人が新規利用につながった。

12月の理事会で事業所の休止が決定し、1月以降は、利用者・家族・居宅介護支援事業所への説明と、近隣住民へのあいさつ回りを行った。中でも、利用者の次の事業所探しについては、情報提供や紹介を行う等できる限り協力させていただいた。

利用者や家族からの「こんなにいい所はないから、残念でならない」という声や、担当介護支援専門員からは「じゃんけんぽんの取り組みと職員が素晴らしすぎて、希望に合うようなデイサービスが見つからず困っている」という言葉もいただき、広寿会のケアと11年間の取組を評価いただけていたことに改めて感謝の想いをもった。

たくさんの方々の支えがあったことで、一人ひとりに寄り添い、その人らしさを尊重した支援ができたと感じる。この経験を他の事業所にも活かしていけるよう努めていく。

(1) 運営状況

定員 10人 稼働率・・・63.2% (通所介護+総合事業)

【通所介護】 平均年齢 87.0歳 平均要介護度 1.3 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	6	6	6	6	8	8	8	9	9	8	7	6	87
利用延人数	73	75	80	80	82	85	88	80	110	93	71	83	1,000

※ 元年度延利用人数 1,020人 平均年齢 87.0歳 平均要介護度 1.3

【総合事業】 平均年齢 85.3歳 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	10	9	10	11	10	11	12	12	11	9	10	10	125
利用延人数	51	46	51	61	50	59	64	57	59	42	47	50	637

※ 元年度延利用人数 602人 平均年齢 85.3歳

【介護度別利用実人数】 令和3年3月31日現在

単位：人

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用実人数	5	5	2	3	1	0	0	16

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均回数
要支援1	20	17	22	28	24	27	29	26	28	19	24	24	288	24.0
要支援2	31	29	29	33	26	32	35	31	31	23	23	26	349	29.0
要介護1	48	49	53	53	34	40	43	41	40	35	31	32	499	41.5
要介護2	25	26	27	7	28	28	27	20	36	33	23	35	315	26.2
要介護3	0	0	0	20	20	17	18	19	34	25	17	16	186	15.5
要介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	124	121	131	141	132	144	152	137	169	135	118	133	1,637	136.4
稼働率 (%)	56.3	57.6	59.5	61.3	62.8	65.4	69.0	65.2	76.8	67.5	59.0	57.8	63.2	

※ 年間営業日数 259日

(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

クッキング・おやつ作り 2回/月程度

屋外歩行訓練

季節行事等

誕生会、お花見、お茶もみ、遠足、七夕飾り作り、布ぞうり作り、紫蘇ジュース作り

ミニ運動会、遠足、干し柿作り、たくあん作り、もちつき、豆まき、握り寿司バイキング等

《評価》

2年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、屋内での活動が中心となった。お茶揉みや紫蘇ジュース作り・干し柿作り・たくあん作り・もちつき等、広田で採れた野菜等を使って季節感を味わってもらうような企画を実施した。同時に、それぞれの利用者に役割を持っていただき、楽しく活動してもらえよう努めた。また、機能訓練を兼ねた屋外散策は、感染対策に配慮しながら実施し、利用者に大変喜んでいただけた。

3月には、11年間の感謝の気持ちを込めてプロの寿司職人を招き、握り寿司ランチを提供した。いつもは食事が進まない利用者がお代わりされる等大好評であった。

《行事写真》



【お花見（石手川）】



【お茶揉み】



【七夕飾り作り】



【遠足】



【もちつき】



【握り寿司ランチ】

（３）事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・４件

《危険度１》 …… 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった ４件

事故報告書・・・２件

《危険度２》 …… 処置は行わなかったが、バイタルサイン・観察は継続的に必要 ２件

《危険度３》 …… 簡単な処置や治療を要した（消毒・ガーゼ保護、湿布） ０件

②内容

離設	1	転倒	2
貼付薬貼り替え忘れ	1	湯呑に消毒液を入れる	1
連絡帳記入漏れ	1		

③原因

確認不足	2	利用者の不注意	2
環境整備不十分	1	不穩時の対応方法の共通認識不十分	1

④件数の推移

28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
12件	7件	4件	8件	6件

⑤分析

離設事故は、不穩になった利用者が職員の静止を振り切って屋外に出てしまい、職員が携帯電話を取りに行っている間に見失う事故が発生した。日頃から些細な事が引き金となり不穩状態になることがあり、常に体調や表情の確認が必要な利用者だった。警察にも相談をし、30分ほどの捜索で無事発見され安堵した。この事故をきっかけに、緊急時の連絡体制や対応方法等を再検討した。事

業所携帯電話はすぐに持ち出しができるように玄関付近に設置し、また利用者の安全と防犯の観点から玄関の施錠を徹底した。

ヒヤリハットで特筆すべきものは、お茶をお代わりしようとして手指消毒液を湯呑に入れようとしたケースである。職員が気づき未然に防ぐことができたが、感染予防ですぐに使える場所に置いていたことが、利用者に誤った認識を持たせてしまったと考える。コロナ禍で消毒薬の設置は当たり前になっているが、どの事業所でも起こり得るケースとして十分注意しなければならない。

(4) 防火・避難訓練

- 実施日：令和2年12月9日（水）
- 参加者：利用者 5人（全員参加）
職員 4人
- 消防署の立ち会いなし



【避難訓練】

《評価》

事前に、消防署員から消火器の使用方法等の説明を受けた職員が、緊急時、慌てず消火器を使っての初期消火が実施できるように、利用者4人に実際に消火訓練をしてもらった。利用者から「実際に使ったことがなかったので、この機会に消火訓練に参加できて良かった。」という声があった。

(5) 苦情受付

受付件数：0件

(6) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、居宅管理者、たちばなの家職員

(主な協議事項) 担当より連絡・報告 ケース検討 実績報告 事故検討

開催日	協議項目
R02. 04. 27	感染予防対策の検討
05. 19	新規利用者獲得方法の検討
06. 29	経営状況報告と現状打破策
07. 28	「五感で美味しく食べる」を念頭においた食事提供の工夫
08. 27	新規利用者ケースカンファレンス
09. 29	事故報告と対応策の周知徹底
10. 28	ケース・業務検討
11. 27	新規利用者ケースカンファレンス
12. 29	認知症周辺症状への対応検討
R03. 01. 28	感染対策強化の検討
03. 02	有終の美で幕を閉じるために

〔3〕 砥部町デイサービスセンター（砥部町受託事業）

【令和2年度目標の評価】

【重点目標】 身体機能の維持・改善、利用が楽しみになるデイサービスの創造

通所介護の利用延人数は元年度と比較すると582人減少し、総合事業を含めた稼働率は8.6ポイント低下した。特に11月以降体調を崩して入院後亡くなる方や施設へ入居された方が多く、8人が利用終了となり、実人数も元年度より減少している。砥部町デイサービスセンターだけの支援では在宅生活の継続が困難な利用者が多く、他事業所とも連携を図り支援していくことが重要だと痛感した。総合事業では、新規利用者が増えたことで、実人数、延べ人数ともに元年度より増加した。今後も在宅生活が継続でき、要介護状態にならないよう支援をしていきたい。

利用毎の経過観察を行い、家族と介護支援専門員へ情報提供することで、体調変化の早期発見に努めることができた。利用者や家族からも定期受診の結果等の情報提供をしていただくことも定着してきている。また、自宅での介護方法の相談についてもアドバイスや支援を行い、家族の介護負担を少しでも軽減できるよう努めた。利用者の中には家族が県外に住まわれている方もおり、体調変化時等の支援方法に時間を要してしまうこともあり、今後の課題となっている。

新型コロナウイルスの影響により主な活動が砥部町デイサービスセンター内と限定されてしまったが、普段から実施している認知症予防体操やレクリエーションのバリエーションを増やす等、内容を見直し、楽しみながら身体機能の維持・改善ができるサービスの提供に努めた結果、利用者からは「ここに来ると楽しんで運動ができる」「家に居るよりデイサービスに来た方が頑張りたい」という気持ちになる」といった声があった。

（1）運営状況

定員 25 人 稼働率・・・60.7%（介護＋総合事業）

【通所介護】 平均年齢 87.6 歳 平均要介護度 1.7 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	28	26	29	29	29	27	28	24	23	23	25	26	317
利用延人数	260	227	242	247	222	231	267	219	210	216	233	269	2,843

※ 元年度延利用人数 3,425 人 平均年齢 87.6 歳 平均要介護度 1.7

【総合事業】 平均年齢 87.5 歳 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	13	14	15	15	13	14	15	16	16	18	17	18	184
利用延人数	81	82	95	90	84	90	100	98	97	92	83	98	1,090

※ 元年度延利用人数 1,046 人 平均年齢 87.5 歳

【介護度別利用実人数】 令和3年3月31日現在 単位：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
利用実人数	1	9	8	9	8	8	0	1	44

【介護度別利用延人数】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均人数
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5	13	1.0
要支援1	20	18	23	20	18	19	26	29	35	29	28	37	302	25.1
要支援2	61	64	72	70	66	71	74	69	62	59	51	56	775	64.5
要介護1	103	90	120	105	82	98	97	71	78	79	88	102	1,113	92.7
要介護2	85	71	58	67	64	69	78	69	72	61	68	79	841	70.0
要介護3	63	58	54	56	62	56	81	62	49	67	67	77	752	62.6
要介護4	0	0	0	8	3	0	0	0	0	0	0	0	11	0.9
要介護5	9	8	10	11	11	8	11	17	11	9	10	11	126	10.5
合計	341	309	337	337	306	321	367	317	307	308	316	367	3,933	327.7
稼働率 (%)	62.0	58.8	61.2	58.6	58.2	58.3	66.7	60.3	55.8	61.6	63.2	63.8	60.7	

※ 年間営業日数 259日

(2) 事業内容

(目的) 年間行事計画、ケアプランに基づいた行事等計画・実施

(実施内容)

定期開催

食事作り・おやつ作り 4回/月程度

誕生会 毎月

季節行事

お花見、地方祭、敬老会、

《評価》

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ボランティア等の受け入れや屋外での活動は実施できなかったが、屋内でも利用者が楽しみを持って笑顔で参加できる行事企画に努め、感染予防対策を徹底したうえで食事やおやつ作りを中心に実施した。利用者と職員と一緒に作り味わうことを共有し楽しみを持って実施することができた。また、利用者から山や畑で収穫した野菜等の差し入れも多く、利用者と相談し、地域の特色を活かした料理を、昔を思い出しながら慣れた手つきで調理される姿が見られた。

2年度は新型コロナウイルスの影響により様々な年間行事が実施できなかったが、限られた中で利用者と職員が相談し、利用者を選択していただいた行事を行うことができた。

3年度も引き続き、デイサービスを利用することで長く自宅での生活が続けられるようなサービス提供を行い、笑顔でデイサービスに来ていただけるようにしていきたい。

《行事写真》



【お茶会】



【お茶もみ】



【手打ちうどん】



【七夕飾り】



【地方祭】



【昼食バイキング】

(3) 事故報告

①件数

ヒヤリハット・・・8件

《危険度0》 … 事故を未然に防ぐことができた 6件

《危険度1》 … 事故を未然に防ぐことはできなかったが、バイタルサインを含め異常は確認されなかった 2件

事故報告書・・・8件

《危険度2》 … 処置や治療は行わなかったが、バイタルサイン観察は継続的に必要 6件

《危険度3》 … 簡単な処置や治療を要した（消毒・湿布・皮膚剥離・鎮痛剤の服用） 1件

《危険度4》 … 濃厚な治療を要した（骨折・縫合・入院等） 1件

②内容

転倒	6	利用者物品の返却間違い	2
杖先が滑る	1	椅子が後方に倒れそうになる	1
方向転換時のふらつき	1	送迎車のフロアマットに座る	1
誤薬	1	シートベルトがきちんと固定されていない	1
歯ブラシにハンドソープをつけそうになる	1	椅子のない所で座ろうとされる	1

③原因

利用者の不注意	5	確認不足	5
見守り不十分	4	環境・設備	1
設備・点検不足	1		

④件数の推移

28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
9件	23件	33件	22件	16件

⑤分析

事故等の総件数は、元年度と比較して6件減少した。事故報告8件のうち半数以上が転倒事故と最も多くなっている。その中で、介護保険事故が1件あり、レクリエーション終了後、利用者がトイレへ行こうとして転倒し、前頭部に腫脹が見られ受診した。検査の結果、特に異常はなかったが、痛みで利用ができない日が続いた。転倒事故は、送迎前後やレクリエーション時等、複数の利用者が動かれる際の見守りが手薄な時に多くなっている。また、普段から使用していない杖やシルバーカー等の置き場所も利用者の動きを十分に想定していたとは言えない。カンファレンスで検討したことを徹底して再発防止に努める。

その他、誤薬や物品の返却間違い等職員の人為的なミスが継続して発生している。確実にダブルチェックを行うことで、少しでも人為的ミスを減らしていきたい。

(4) 苦情受付

(目的) 利用者及びその家族からの苦情に対し、迅速、公正かつ適切に解決することを目的とする。

苦情受付件数：0件

(5) 在宅ケア委員会

(参加者) 施設長、部長、砥部町デイサービス職員、居宅介護支援事業所

(主な協議事項) ケース・業務検討、各部署・委員会より連絡、新型コロナウイルス感染予防

開催日	協議項目
R02.04.24	事故検討
05月	書面にて回覧
06.24	事故検討 ADL維持加算算定方法の説明
07.24	事故検討 県外帰省者の対応方法について
08.25	水分提供方法の検討 レクリエーションの見直し
09.25	事故検討 利用者の現状報告 小規模イベントの検討
10.29	事故検討 避難訓練反省
11.24	事故検討 利用者の現状報告
12.21	事故検討 サービス外支援の検討
R03.01.29	食事提供方法の検討
02.22	事故検討 ケース検討
03.26	事故検討 人事異動報告

〔4〕砥部町地域支援事業（砥部町受託事業）

（1）転倒予防教室

新型コロナウイルス感染防止のため開催中止。

（2）地域住民グループ支援事業

（目的）地域や世代間の交流を図ることにより、高齢者の生活意欲の向上を目指す。

三世代交流会

令和3年3月12日（水） 参加者：28人

《評価》

新型コロナウイルスの感染が落ち着いている時期を見計らって開催した。感染を恐れ自宅にこもりがちになっている高齢者も多く、「1日誰とも話さないことも多い」という声もあった。

人とのつながりが希薄になってしまったことで、改めてこの事業の必要性を感じた。引き続き、少しでも多くの方々が地域の中でつながっていけるよう取り組んでいく。



【ネイチャーゲームを楽しもう！】

（3）いきいき見守り配食サービス

（目的）65歳以上の独居高齢者等で調理が困難な希望者に、バランスのとれた食事を提供するとともに定期的な安否確認を行う。

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数	5	5	6	4	4	5	5	5	5	5	5	5	59/4.9
延利用回数	44	43	54	36	33	45	45	43	41	44	42	48	518/43.1

《評価》

本人や家族の希望をもとに、町担当者とのカンファレンスを経て提供を行っている。2年度は新規利用者が2人。提供食数は元年度比で115%となった。

〔5〕支援ハウス（砥部町受託事業）

（1）運営状況

定員 10人

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居人数	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	8	8

※ 入居人数は月末入居人数

（2）行事報告

砥部町デイサービスセンターや特養ひろたの催し物に随時参加

4. 会 議 等

〔1〕 主任会

事業運営、各事業所の課題検討、実績報告等話し合いを行う。

(参加者) 施設長、部長、施設部門主任、在宅部門主任

(開催日) 1か月に1回程度 14:00～

(主な協議事項) 各部署からの報告・連絡・アクションプランの評価

開催日	協議事項等
R02.04.03	新型コロナウイルス感染対策(面会再開、方法) 人事等 パート職員の人事考課の検討
05.01	新型コロナウイルス感染対策(面会等) 人事等
06.12	新型コロナウイルス感染対策 調整会議
07.03	システム変更 利用料金引き落とし銀行追加 玄関の施錠・開錠時間の統一 人事等
08.07	システム変更予定 ドクターメイト導入検討 人事等
09.04	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業 購入物品の検討 慰労金支給 新規事業についての報告 人事等
10.02	小規模多機能型居宅介護事業所開設準備状況 上期の実績報告 人事等
11.06	防災BCP計画作成検討 大規模改修 たちばなの家じゃんけんぼんの休止 人事等
11.27	調整会議
R03.01.08	大規模改修 給与規定 就業規則の見直し 超過勤務の届け出方法 人事等
02.04	システム導入研修 大規模改修 面会方法変更 小規模多機能開設に向けて 人事等
03.05	システム運営方法 給与改正・支給日案 小規模多機能開設に向けて

〔2〕 職員会

施設運営に関する職員間の情報共有を行う。

(参加者) 全職員

(開催日) 3か月に1回 第1週目 17:30～

(主な協議事項) 行事予定の連絡 各部署からの連絡事項

開催日	参加人数	協議事項等
R02.04.01	22	辞令交付 人事異動 労働者の代表選任 新型コロナウイルス対策 互助会決算報告 喫煙ルール厳守 新規事業について
07.01	20	理事会・評議員会報告 階段施錠方法 新規事業 新型コロナウイルス感染予防 人事
10.01	22	監査報告 新規事業 人事異動 各事業所のアピールポイント 新型コロナウイルス注意喚起
R03.01.04	20	安全運転注意喚起 人事 新記録システム 新型コロナウイルス注意喚起 新規事業所名決定

〔3〕広報委員会

広報紙「広寿」の編集発行を中心に、法人及び事業所の情報発信に努めていく。

(参加者) 各部署で選定された職員

《振り返りと課題》

2年度は、第41号(令和2年8月)、第42号(令和3年1月)を発行し、施設利用者や家族、地域住民、そして近隣施設等関係機関へ配付した。



【広寿第41号】

【広寿第42号】

発行回数を増やし、各事業所の取り組み内容等の情報発信に努めたい。

ホームページやブログを活用した情報発信

日常の様子をタイムリーに伝える手段として有効活用を努め、情報発信をしていく。

- 広寿会ホームページ
<http://www.koujukai-hirota.com/>

- ブログ 「ほのぼの♪ひろた日記」
「たちばな便り じゃんけんぽん」



ブログ「ほのぼの♪ひろた日記」

《振り返りと課題》

法人全体で発行する「広寿」は2回の発行となった。ブログに関しては、更新が滞ってしまった。3年度はホームページの再構築を行い、家族等が興味を持って閲覧していただくことができるよう情報発信をしていきたい。

〔4〕防災委員会


防災に関する知識を養い、その対策全般に関する検討及び実行をする。

(参加者) 施設長、部長、防火管理者・特養ひろた生活相談員、居宅管理者、看護主任、管理栄養士、砥部町デイサービスセンター生活相談員

開催日	協議事項
R02. 10. 01	防災マニュアルの見直し 防災訓練の反省 防火管理者の交代について
R03. 03. 18	防災訓練の反省

① 防災訓練等の実施状況

年月日	訓練の名称及び内容	
R02. 06. 25	中予老施協 緊急連絡網防災訓練 (中予老施協災害時書類を使用した伝達訓練)	
10. 29	第1回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、レスキューシート訓練、消火訓練) ※地震火災想定 ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービスセンター合同で実施	<p>【レスキューシート訓練】</p>

	※新型コロナウイルス感染予防のため自主訓練。 通報・逆信対応実施	
R03.03.18	第2回 防災訓練 (通報訓練、避難訓練、レスキューシート訓練、消火訓練) ※夜間火災想定(特養ひろた) ※初期消火訓練は、特養ひろた・砥部町デイサービスセンター合同 で実施	 【避難訓練】

《総評》

中予老施協緊急連絡網防災訓練では、加入施設での伝達訓練を行った。正確な内容が伝達できなかったことや、全職員が対応を行えない等の問題点が浮き彫りとなった。災害はいつ起こるか分からないため、どの職員でも正確な内容を伝達できるような体制を整備する必要があると感じた。

事業所ごとに実施する年2回の防災・防火訓練では、初期消火・避難誘導・通報の大切さを学んだ。逆信対応時には、何度も訓練を行っている職員であっても、冷静な対応ができない状況になる可能性があるため、逆信対応方法を記載することにより、全ての職員が情報共有を行なえることが必要と感じ、改善を行った。

〔5〕給食委員会

「食＝命」をテーマに、より良い食の提供を施設職員、厨房委託業者職員とともに取り組む。

(参加者) 委託業者、施設長、部長、施設部主任、砥部町デイサービスセンター生活相談員
管理栄養士

(開催) 毎月1回

(主な協議事項) 利用者の食事摂取状況や料理の味付け、献立内容、食事形態、感染対策等

《総評》

2年度は新型コロナウイルス感染症が発生した場合の食事提供方法や感染予防方法について委託事業者と情報共有を行い、備える事ができた。感染予防の観点から行事食を中止する物もあったが、感染対策を行いながら可能な限り実施した。今後も感染対策に配慮しながら委託事業者と連携し利用者に喜ばれる食事提供をしていきたい。

行事食

【施設・在宅部門】

月	日	行事	献立内容
04	21	祝い膳	ちらし寿司・鶏の唐揚げ(あおさ)・春野菜の天ぷら・わらびの卵とじ・春キャベツのシュウマイ・スナックえんどう・赤だし・いちご大福
05	28	祝い膳	五目おこわ・サイコロステーキ・そら豆のかき揚げ・新玉ねぎ・春キャベツのサラダ・若竹汁・よもぎもち
06	26	手打ちうどん	うどん・おにぎり・さつま芋の天ぷら・酢の物・ごまプリン
07	29 30	たらいそうめん (1丁目)	そうめん・おにぎり・しらす和え・鶏の唐揚げ・やきナス・枝豆・玉子やき・ぶどう

		(3丁目)・砥部デイ	
08	21	祝い膳	五穀ご飯・三種の串揚げ・やきナス・長芋のわさび和え・きゅうりの酢の物・煮豆・そうめん汁・桃のブラマンジェ
09	04	祝 102 歳の祝い膳	天ぷらうどん・いなり寿司・お煮しめ・カップケーキ
10	19	祝い膳	栗ちらし寿司・鮭ときのこのホイル蒸し・ミニグラタン・豚バラ巻き・白菜のごまマヨ和え・里芋サラダ・赤だし・さつま芋のモンブラン
11	30	祝い膳	茶碗蒸し・天ぷら・白和え・ブロッコリーのかにあんかけ・赤だし・スイートポテト
12	25	デザートバイキング	デザートバイキング・おにぎり・鶏の唐揚げ・だし巻き玉子・枝豆
	30	もちつき	もちバイキング・豚肉の野菜巻き・和え物・りんごゼリー
01	01	お節料理	巻き寿司・お刺身・三点盛り・鶏の南蛮漬け・岩石玉子・紅白なます・すまし汁・栗きんとん
02	19	祝い膳	海鮮丼・牛すじと大根の煮込み・さつま芋の天ぷら・ほうれん草のキッシュ・菜の花の辛子和え・すまし汁・いちご大福
03	29	祝 105 歳(砥部デイ)	ご飯・すき焼き・ツナサラダ・キウイフルーツ

《振り返りと課題》

職員企画として採用されたクリスマスのデザートバイキングは、計画では回転寿司の装置を利用して、利用者に自由に取っていただく予定であったが、感染予防のため予定を変更し、数種類のデザートをお皿に乗せ、その中から選んでいただく方法を取った。厨房委託業者の協力もあり、15種類のデザートが並び、特に女性利用者には好評で大変喜んでいただけた。

また、祝い膳は旬の野菜を取り入れた料理を中心に献立作成を行った。ひろた農園での野菜作りにも力を入れ、畑で採れた野菜を使用した祝い膳



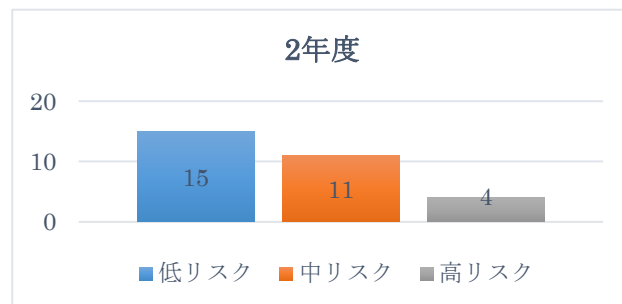
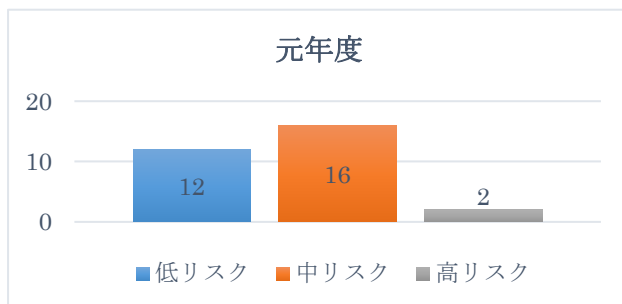
【デザートバイキング】

の提供もできた。新型コロナウイルスの影響で外出や外食が難しく、また行事食の内容を変更する等もあったが、3年度はより食事楽しんでいただくために、日本全国のご当地グルメや郷土料理を取り入れた祝い膳の提供を計画している。



【デザートバイキング】

①栄養ケアマネジメント評価



2年度は中リスク者 11 人と元年度と比べて 5 人減少した。中リスク者の割合が下がった理由として、栄養補助食品を追加提供することで低アルブミン血症の改善が見られたことが大きく関係し

ている。一方で高リスク者の割合が増えた要因は入居前から褥瘡があったことや低アルブミン血症があげられる。今後も食事状況・体重変化の観察を行い、一人ひとりに合った食事を提供し栄養状態の改善を目指す。

②経口維持評価

医師又は歯科医師の指示に基づいて、誤嚥が認められる利用者が安全に食事摂取できるよう取り組んでいる。2年度は1人退居され、2人は新規利用者と追加となり6人になった。

取り組みを継続している6人には、誤嚥を予防するためのマッサージや食前に練り梅をすすめることで覚醒を促す等、歯科医師や歯科衛生士と連携し安全に美味しく『口から食べる』ことに取り組んでいる。

③経口移行評価

胃ろうを造設している利用者1人について、医師、歯科医師の指示に基づき経口から安全に食事摂取できるよう多職種で連携して取り組んでいる。一口のデザートから開始し、約半年後に朝食を経口に移行、現在朝夕の2食を経口から摂取できるまでになっている。誤嚥に注意しつつ、根気強く取り組んだことで、胃ろうからの脱却にあと一歩のところまでできている。

5. 研 修 等

〔1〕施設内研修

開催日	研修名	担当者名
R02. 04. 01	倫理及び法令遵守	西岡真由美
07. 01	食中毒	菊澤綾香
07. 29, 30 09. 09, 15, 16	接遇・個人情報保護・セクハラ・パワハラ	松本真理
08. 21	事故防止	二宮幸栄
08. 26	身体拘束・虐待	門田佑介
09. 28 09. 30	ターミナルケア	吉見涼
10. 01	コロナウイルス感染症	上谷千代
11. 25 11. 30	排泄ケア	宇都宮好子
R3. 01. 04	身体拘束・虐待	川江和代・門田佑介
02. 01 02. 03	ターミナルケア	中野あかね
02. 17 02. 24 03. 03	F T ケア システム研修	(外部講師)
03. 24 03. 30	褥瘡・事故・リスクマネジメント	藤岡早苗・二宮幸栄

【研修会】

年間計画に沿って担当を決め、毎月行われる研修委員会で事前に研修内容を検討している。

2年度は新型コロナウイルスの感染予防のため、外部講師を招いての研修や救命救急講習を実施する事ができなかった。施設内の研修においても延期や中止となった研修もあったが、職員同士の距離を取り、換気を行う等の感染対策を徹底した上で、必要な研修は実施する事ができた。

毎年行っている感染予防の研修に一早く新型コロナウイルス感染症の内容を取り入れ、職員全体に知識や予防方法の周知徹底ができた。

新たな取り組みとしては、外部講師によるWEB研修に参加し、職員から参加しやすいと好評を得た。3年度は施設内でもWEB研修等計画し、職員が勉強しやすいような環境を整えていきたい。

A series of horizontal dashed lines for writing.



社会福祉法人 広寿会

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151

H P：http://www.koujukai-hirota.com

Mail：info@koujukai-hirota.com

ブログ：https://ameblo.jp/koujukai-hirota/



特別養護老人ホームひろた 短期入所生活介護事業所ひろた 居宅介護支援事業所ひろた

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 405 番地

電話：089-969-2155 FAX：089-969-5151



小規模多機能型居宅介護事業所 やまの里たまたに

〒791-2202

愛媛県伊予郡砥部町玉谷 670 番地 1

電話：089-969-5010 FAX：089-969-5011



砥部町デイサービスセンター (砥部町受託事業)

〒791-2205

愛媛県伊予郡砥部町総津 398 番地

電話：089-969-2211 FAX：089-969-5151





さくらちいれ



干柿



ちんし寿司



釜揚げうどん



あいか



たけはなの家
じゅうしほん



紫蘇ニュース



たごちいれ



書初め



中山フラワーいっ



肉子笹まつり



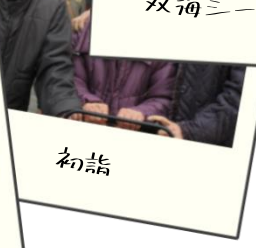
梅干しちいれ



秋祭り



双海シーサイド公



初詣